

寺報  
**得源寺**

第9号  
発行 = 真宗  
大谷派得源寺  
住職大橋友啓  
☎0767-68-2096

真宗王国どこ行った？

住職 大橋友啓

国政のトップと言えば総理大臣だが、当派宗政のトップは宗務総長である。その職にあった但馬総長が九月二三日未明に逝去された。小松市出身の六二歳だった。二七日の朝刊に前日の通夜の様子が写真付きで記事になっていた。

一二文字・一八行・全二百字程のその記事を読んだのだが、何かしらシックリこない。違和感しかない。

記事の中ほどに「門徒ら約六〇〇人が冥福を祈った」とある。写真のキャプションにも「但馬氏の冥福を祈る参列者」とある。これだ、これだった。

死者が行くという暗黒の世界を冥土と言ひ、その冥土での幸福な生活をお祈りするこゝを、

丁寧「こゝ冥福をお祈りします」と言っているのである。

私たち真宗門徒は、すべての凡夫を清らかな国土（浄土）に誕生させるため、二百一十億もあつた浄土の善いところ悪いところをくまなく観察し、五劫というとても長い時間をかけて「極楽」という名の世界で一番有名な「浄土」をおつくりくださった『阿弥陀如来』を信仰する教団に身を置いている。

よって、私たちには、冥土は無縁の世界であり、祈りも必要ない。だったらどう言えはいいのかと聞かれる。「お悔やみ申し上げます」で良いのである。

「冥福を祈る」などという言葉は、そもそも真宗王国と言われていた県内では使われていなかった筈である。真宗という信仰生活に支えられていた北陸という土地をあらわす話として、金沢の代表的繁華街の一つである片町では「占ひ」は、全く商

売にならなかつたといわれていたのだが、今や占いや新興宗教に走る真宗門徒ばかりである。迷信に惑わされることなどなかつた「真宗王国」の真宗門徒は、一体どこに行ってしまったのだろうか。

私の車のラジオはいつもつけっぱなしである。月忌参りに出掛けようとすると「お前らのせいだ」「お前らのせいだ」とリフレインする女性の歌声を最近よく耳にする。

真宗門徒が真宗門徒として暮らすことが出来なくなつたのは「お前らのせいだ」「お前らのせいだ」と言っているように聞こえる。この曲は、Apopという女性が歌っている「蝸旋（くらせん）」というのだぞうだ。

少し救われるのは、お前らの「ら」である。複数の相手に言っているようで、私の事だけを言っているのではないように聞こえてくるのが嬉しい。

今年も、能登教区第一四組南部小会一〇ヶ寺の住職（ら）の寺院で報恩講引上会が始まる。「お前らのせいだ」と言われないうちにしっかり勤めたい。

総代会開催報告

九月二三日秋の祠堂経会終了後に総代会を開催。

本年度の本山御依頼金の報告があり、引上会は昨年同様にお仲間寺院の参り合いは行つたが「おとき」の接待は中止との申し合わせがあつたことが報告された。

今年も御正忌報恩講は中止とした。本来ならば、この機会に上山して御正忌報恩講にお参りをしたいのだが、本山も参詣人数を制限したりしてコロナ禍対策をしながらのことなので、みんな楽しく京参りは、今しばらく我慢といったところだ。

年明け早々に、門徒戸数調査を実施の予定で、総代各位のご協力を依頼した。



# お知らせ!!

二〇二二年一〇月〜二三年一月

## 報恩講引上会

ほうおんこういんじょうえ

親鸞聖人の御命日をご縁として私たちの御本山でつとまる報恩講(一月二日から二八日)を、当寺では毎年先取りしてご案内の両日に、「引上会」という名称で執行しています。近隣の寺院一〇ヶ寺のご住職方をお招きして荘厳な正信偈を勤める大逮夜が初日のメインとなります。

とき 一〇月二五日(月)

から二六日(火)

両日とも午後二時お始まり

## お磨きのひょうし

報恩講をおつとめするに当たって、恒例の仏具磨きを行います。年齢や性別は問いません。ご協力いただける方はどなたでも歓迎します。ついでに輝きを失ってしまったご自宅の仏具があつたらお持ちください一緒に磨いてはいかがでしょうか。

とき 一〇月一六日(土)

午後二時から

ところ 得源寺本堂

## 門徒呼び「中止!!」

昨年同様、今年も中止といたします。

## 一四組引上会日程

一〇月	
二・三日	和倉 信行寺
四・五日	伊久留 宿善寺
七・八日	田鶴浜 称蓮寺
一二・一三日	高田 宗貞寺
一五・一六日	本年中止 聞成寺
一九・二〇日	伊久留 浄願寺
二二・二三日	盤若野 善行寺
二五・二六日	田鶴浜 得源寺
三〇・三一日	松百 徳生寺
一月	
五・六日	七原 閑窓寺

## 除夜の鐘

とき 十二月三一日大晦日

午後一時頃から突き始めます。

## 修正会

しゅうしんかい

元旦早朝六時から年の初めのお勤めがあり、法要に続いて庫裏で住職が年賀を受けます。

## 古

前回の答えで〜す!



二〇一二年から一八年まで六年間にわたって毎年一月二八日の親鸞さんの御命日に集合写真を撮り続けてきましたが、コロナ禍などによって法要もお済みなくなりましたので、本年からは、秋のお彼岸にお参りいただいた方々で集合写真を撮ることにしました。撮った写真は、渡り廊下に額装し展示してあります。いつでもご覧ください。

(釋友啓)

## 秋のお彼岸に

## 集合写真を!!

